

美容皮膚科医に聞く! キレイの最前線



しみの治療は、その種類によってレーザー治療や塗り薬、飲み薬、ビタミン導入、ピーリング療法など使い分けます。塗り薬と飲み薬の効果が高いとされているのは、頬にもやっと広がる「肝斑」です。肝斑への

レーザー治療は、症状を悪化させることがあるのでお薦めできません。数年前からでている特殊なタイプのレーザー治療も、まだ確実とはいません。

①ハイドロキノン塗り薬
ハイドロキノンは、市販

の美白製品に配合されているアルブチン、コウジ酸、プラセンタエキスなどの成分の100倍の効果があるといわれています。濃度を調節して、院内製剤の薬品を処方します。

メラニンの元であるメラノサイトーシスの働きを抑えるので、肝斑だけでなく、深い層にあるメラニン色素

右側があります。院内製剤を処方してもらい、2週間ごとに医師の診察を受けながら濃度を上げていきます。お肌のターンオーバーを促進するので、しみだけでなく美肌の効果があります=写真左。

③トランキサム酸、ビタミンCの内服
肝斑が気になる私は一年中服用しています。2カ月を目標に飲みます。肝機能が悪く、血栓症の人は使えない人には適しています。



身、京都在住)
(向田公美子・藤島高出
以上のような塗り薬と飲み薬による治療は、根気がいりますが、クリニックに頻繁に通う必要がなく忙しい人には適しています。

「肝斑」治療に塗り薬

5

診察受けて濃度調節